

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
1	戊辰役大総督宮御警衛・・・舟橋駒ヶ峰 両役従軍人名簿・銃手人名簿・大総督宮 東下御行列附・布達雜纂				真口			長帳綴		
1	1 大御総督宮[]三条殿[]	[明治2]					大御総督宮御守衛人数、三条殿御守衛 人数	長帳綴		
1	2 御軍事 舟橋・駒峯戦争一〇 惣人数名 元歳扣							長帳綴		
1	3 惣軍御行列附							長帳綴		
1	4 銃手名簿						表紙に「根本□□氏ヨ罷受候分六綴之 内」とあり	長帳綴		
1	5 覚						戦争功労者書上	長帳綴		
1	6 御触状写	慶応4	5	1	根本源五左衛門		表紙に「根本源五左衛門相[]」とあり、 また後筆で「廿八年四月□□□□五左衛 門ヨ□[]受□分」とあり	長帳綴		
2	長崎表江おろしや船渡来急速御越座御 供ヨリ直ニ播磨殿一同滞崎記録 草稿	嘉永6丑	12～				日雇頭あり	長帳		2～21一括
3	1 崎陽日記		4	6			沢帰京	小横帳		～5月5日(①～④ は綴)
3	2 出崎日記	[明治2]	1	12				小横帳		～2月16日
3	3 覚		12	21				小横帳		
3	4 出崎 覚	明治2	1					小横帳		
4	長成公侯爵御授候ニ付明治十七年七月 廿二日臨時御祭典ニ付諸入費計算帳	明治17	7					長帳		
5	操練手続							長帳		
6	明治十七歳七月七日長成君侯爵御授候 ニ付同年七月廿二日臨時御祭典西川護 御代参ニ付諸入書	明治17	7					長帳		
7	在住附属割						上座郡左右良 四千石 郡左近分他	長帳		
8	[友泉亭御滞座中認被下役人]	文政11	5		小河専大夫			長帳		
9	御礼式・諸役当役料							小横帳		
10	覚書						請帳定・寺社御造営之定・御法事料定・遷 宮料之定・寺社寄附などの定	小横帳		
11	黒田藩諸法令記録	文政7			礮部勝名写		「御法令并御添書(長政3ヶ条法令及び享 保2年9月添書)」等82条	袖珍帳		
12	黒田藩御用船記録	文政8			礮部勝名写		「元文5年長崎御奉行立御船之櫓立并御 船飾之事」等85ヶ条	袖珍帳		
13	日記 春夏	嘉永4	1～6					袖珍帳		
14	安政二年卯十月二日地震後之聞見録	安政2	10	2				小書冊		
15	倭流芝笠掛的	宝永2	3		三木□□子		騎射術心得	長綴		
16	日記	天明2	4				鳳陽院(治之)遺髪送迎の日記	小書冊		
17	覚書御書案						老中・京所司代・大坂城代他への書案	袖珍帳		
18	[黒田藩諸家系譜并武鑑]						黒田(三奈木)・久野・野村等20家	小書冊		
19	御目見并御料理頂戴之御次第			8	21		二之先右備之面々引揚、御領端守衛の 人数と交代に付御目見	長帳		
20	[軍備人数附]							長帳		
21	日記	[明治4]	正月	14			黒田家家扶日記カ	長帳		～8月
22	帰郷日記	嘉永4	5				江戸より中仙道經由の大坂迄	小横帳		22～38まで一括

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
23	諸覚						「御日掛御出臨時御出財之口々」	長帳		
24	1 齊清公御入寺御行列附	嘉永4亥	3	2			乾龍院(天真寺葬)の入寺行列附	長帳		(嘉永4年4月25日、真藤氏写) (①～②は綴)
24	2 乾龍院様為納経龍光院下向之次第并御仕向御次第書写	嘉永4亥	3					長帳		
25	大隊編制二付在住所割替覚						黒崎・大隈・市ノ瀬・若宮河内・猪野・薦野他	長帳		
26	上京日誌	元治2乙丑	2		倉八権九郎正隣楓蔭陳人		同行者 浅香一索・筑紫衛・早川養敬・戸川佐五左衛門、京の公務終了後帰国まで	小横帳		
27	(後筆)「斉溥公」少将様御廻村御供宛草	嘉永6	11				小川主計方取次日記、底井野滞座	長帳		
28	旅費遣出「雑」(後筆)覚「并日記」(後筆)	明治5	正月				「大坂乗舟後出財覚」他、東京詰方に係わる上府日記を含む	長帳		
29	1 「継高公」御系 四番						継高の子息略系	小横帳		(①～②は綴)
29	2 「覚書」						佐々木秀定の名の吟味他、諸系譜記事の阻誤に対する意見書	長帳		
30	覚			子3	吉岡久之丞・桐山十左衛門		井手勘七他についての風説言上覚	長帳		
31	記	嘉永7 ～慶応2			深見平治郎		嘉永7年5月16日より慶応2年5月29日までの石火矢鑄立数覚	長帳		
32	原田弥左衛門所蔵 井上道栢書翰之写	[天保14]	[3月]	[下旬]	[高井知定写]			長帳		
33	[行軍列]						先陣加藤能登守	袖珍帳		
34	[福岡藩兵法者履歴]				(長野誠)			長帳		前欠
35	御着城御次第書		4	4			4月7日着城(3月2日江戸発駕)	袖珍帳		35～38まで一括
36	覚書		6	26	(倉八権九郎)		6月26日御隠宅様附御納戸仰付られたあとの勤事覚	袖珍帳		
37	覚書						勤用覚	小横帳		
38	覚			12			此節一統御欠略仰出され、諸事取細めに付、寺社の軽重の書付進上、青柳種信筆	長帳		
39	学館先生名元帳	文化7			種行		文化7年正月8日入門に付、教授竹田易吉他	小横帳		
40	鞍手郡下新入触之内拾壹ヶ村戌十二月分産子書上長	文久2	12		植村養育方 畠川勘作	遠賀鞍手御郡代御役所		長帳		
41	長崎御番御一手持御人数船諸渡積帳							長帳		41～46は一括
42	加笏御列士千五百石以上						1万石前田近江守他、「因幡伯耆両国之大守松平右衛門各吉泰三家臣御前帳面」を含む	長帳		
43	侍従様御初入御供名附						熊沢庄右衛門・小河縫殿之助他	長帳		
44	1 [黒田二十一騎画像武者名]	嘉永6	1		[隈田弥三郎写分を写] 藤井繁辰所持分を安政7庚申年閏3月15日写		裏に(仮題)「東照大権現并十六騎像略」を記す	長帳		①～②は合綴
44	2 毎年正月廿三日先祖菩提寺に御代参被遣候家柄	[寛政8]	[12]	[24]			正伝庵黒田美作他、他に伊藤家及び桐山家の略系図を合綴	長帳		
45	[御渡物覚]						元日より15日迄の使用人への渡物覚	長帳		
46	山本直右衛門口上覚			2	山本直右衛門		肥前島原一揆時の黒田藩諸将いでたち及び2月27日28日の獲得首・鼻数覚(合せて首200、鼻28)	長帳		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
47	東京戦士功勞等級簿				(長野誠)		郡右馬允他	長帳		判読不明
48	1 慶応戊辰奥羽征討書・						羽州秋田表と出陣の面々江御目見え次第	長帳綴		①～④は綴
48	2 戊辰羽州出兵名元						飯田孫左衛門他	長帳綴		
48	3 勇敢隊功等調口根帳						山本六蔵他	長帳綴		
48	4 旌忠祠姓名簿						銃士青木弥平増秀他	長帳綴		
49	側筒頭江尋		閏2	12	伊藤源兵衛		毛屋主水・隅田新左衛門ヨリの願書に対する存念の尋問	長綴		49～64一括
50	側筒頭江尋		閏2		伊勢田兵大夫		毛屋主水・隅田新左衛門ヨリの願書に対する存念の尋問	長綴		
51	側筒頭江尋		2	晦日	庄野彦右衛門		毛屋主水・隅田新左衛門ヨリの願書に対する存念の尋問	長綴		
52	側筒頭江尋		閏2	3	藪兵蔵		毛屋主水・隅田新左衛門ヨリの願書に対する存念の尋問	長綴		
53	側筒頭中江尋		閏2	7	頭山左中		毛屋主水・隅田新左衛門ヨリの願書に対する存念の尋問	長綴		
54	側筒頭江尋		2	27	矢野九郎左衛門		毛屋主水・隅田新左衛門ヨリの願書に対する存念の尋問	長綴		
55	側筒頭江尋		閏2	朔日	浦上善之進		毛屋主水・隅田新左衛門ヨリの願書に対する存念の尋問	長綴		
56	目付江尋		閏2	3	生田権平		樋口仁兵衛願出の趣についての尋問への対応	長綴		
57	目付江尋		閏2	10	根本源七		樋口仁兵衛願出の趣についての尋問への対応	長綴		
58	目付江尋		閏2	12	月成喜太夫		樋口仁兵衛願出の趣についての尋問への対応	長綴		
59	御目付江尋		閏2	2	都筑源太夫		樋口仁兵衛願出の趣についての尋問への対応	長綴		
60	目付江尋		2	晦日	大森菌右衛門		樋口仁兵衛願出の趣についての尋問への対応	長綴		
61	目付中江尋		閏2	8	貝原与平		樋口仁兵衛願出の趣についての尋問への対応	長綴		
62	目付江尋		2	29	佐藤瀬太夫		樋口仁兵衛願出の趣についての尋問への対応	長綴		
63	弓頭江尋		閏2	14	江川伝太夫		毛屋主水・隅田新左衛門ヨリの願出書に対する御尋の返答	長綴		
64	弓頭江尋		2	7	大塚卯兵衛		毛屋主水・隅田新左衛門ヨリの願出書に対する御尋の返答	長綴		
65	御前備右左一備宛調練之次第	[安政2外]	[2]				65～70の包紙、「安政二年卯二月 御調練御次第書」。表紙に「調 六冊之内」とあり	横帳		
66	一ノ御先右左一備充調練之次第	[安政2外]	[2]				表紙端に「安政二卯二月 調 六冊之内」とあり	横帳		
67	二ノ御先右左一備宛調練之次第	[安政2外]	[2]				表紙端に「安政二卯二月 調 六冊之内」とあり	横帳		
68	御脇備・御後備・小荷駄奉行備一備充調練之次第	[安政2外]	[2]				表紙端に「安政二卯二月 調 六冊之内」とあり	横帳		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
69	[申達]	[安政2]	2			大目付	表紙端に「安政二卯二月 調 六冊之内」とあり。奈多浜にて行なわれる調練の心得を初め、別紙書面の通に申渡しのこと、「調練之節心得」を合載	書冊		
70	[申達]	[安政2]	2			大目付	表紙端に「安政二卯二月 調 六冊之内」とあり。大非常の節の合図の取極め	書冊		
71	[辞令]	[明治3]午	7		祠官班頭	緒方五百枝	祠宮助史に申付	継紙		71~90まで一括、71~90の包紙あり
72	[達]	[明治3]午	8		祠官班頭	神職助史	「組合中職業勲励奉仕の実意を立て、平日心得方教諭筋等信切致すべく候事」他3ヶ条の申渡	継紙		
73	覚	寛政5丑	6		浄念寺	森半兵衛、宮川孫左衛門	浄念寺及び同寺末寺新宮浦西念寺所蔵の書付類の書出	継紙		
74	覚	明治3午	8		鞍手郡下大隈村阿弥陀寺	大長寺、浄念寺	境内、観音堂、薬師山の除地及び抱田地の書上	切紙		
75	証文之事	寛政8丙辰	4		美作内藤井伝太夫・郡弥次右衛門・木原左衛門	浄念寺海空御上人	大工町下屋敷土地入用のため寺地の内、合惣間数入14間、横1間の借用	継紙		
76	証札	天明4辰	4		両本山役寺光明院円空・光林寺晴空	浄念寺、大長寺	浄念寺先住弟子栄峯長=老=、肥後蓮台寺住職に仰付らるに付、宗旨役方に取斗いの願	切紙		
77	[褒状]	[明治5]申	5		桜井大宮司	緒方主水	生得質素貞実・社勤筋厳重にて家内申合せ睦じく、万端内場に心得おるにより褒状	継紙		
78	[辞令]	[明治2]巳	12		桜井大宮司	緒方五百枝	組頭取役に申付	継紙		
79	[辞令]	酉	6		桜井大宮司	緒方主水	早良・怡土両郡社家目付役の申付	継紙		
80	[褒状]	丑	2		桜井大宮司	緒方和泉	早良・怡土両郡目付役申し付けおく処、務め筋よろしきにより目録の通に支渡しのこと	継紙		
81	証抛之事	文化元子	4		浄念寺一空	源左衛門殿御内 木原左衛門・高田利右衛門・間九太夫	大工町に借地し、その代地を差し上げる証文	継紙		
82	奉願口上之覚	文久2戌	2		早良郡十六丁村 緒方主水	浦肥前守	当春上京存立のため寺社役所備金のうち20両拝借の願、同郡社家組頭取平山遠江守外1名の奥書あり	継紙		
83	証抛之事	文化元子	4		浄念寺一空	源左衛門殿御内 木原左衛門・高田利左衛門・間九太夫	大工町に借地し、その代地を差し上げる証文	継紙		
84	御口達控		10		浜兵太夫、鈴木六十郎	浦肥後守	近年長崎表へ異船渡来等により御国財政窮迫につき、寺社においても厳しく省略致すべきのこと	書綴		
85	[書状]		2	19	桜井大宮司役所	小方和泉	達しの儀につき、書状参着次第即刻出方のこと	継紙		
86	[書状]		2	28	那珂席田助史 霞崎重春	緒方五百枝・憶正雅	片江村奉仕阿蘇神社の細書書出の儀は、旧来通りに書出のこと	継紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
87	[書状]		6	20	司祭局	定直広貞・櫛正雅・緒方五百枝	浦每治伴神職指免ぜられ一士籍に指加えらるるにより、早志怡三郡の神職班頭には宮崎元胤に仰付らる旨の伝達	継紙		
88	[書状]		4	16	小長 櫛正雅	緒方安繁	遙拝一件につき、青木直江は其御社頭に出勤詰方の義願出につま、諸事取斗い依頼	継紙		
89	差出申口上覚	未	2		那珂郡山田村 坂井吉鷹	那珂郡席田助史霞崎重春	片江村産神阿蘇神社の儀に付、緒方家同社奉仕の年月を急速に取調べの願	折紙		
90	[神祇官附属社家妻子宗旨御改帳写]						明治2年3月、切支丹宗門改の節の社家妻子男女の幅面写	竪紙		
91	[漢詩写]				(青柳種信)		南冥「飛龍忽抹五雲過」他、南冥・昭陽・徂徠・僧普明・孤山・南郭・古処・大潮和尚・五岳他の漢詩写	書綴		91~95は一括
92	上[筑前国続風土記拾遺草稿]	文政2	8	22	(青柳種信)		遠賀郡二嶋村・志摩郡今津浜の槿木他、草花、洞穴、真珠貝他	書冊		
93	覇家台抄写				(青柳種信)		博多器用及衣服の部(刀他)	書綴		
94	[筑前国続風土記拾遺草稿]				(青柳種信)		金銅土石部(アザカ・金石・又金バク石)、花木(浜むくげ)	書綴		
95	筑後国古文書				(青柳種信)		山門郡瀬高下庄宝聚寺文書写2通	竪紙		書冊よりとれしも
96	崎陽日録 崎陽滞留中日記及見分録 商上	寛政9	5	17			5月17日長崎着~5月24日	袖珍本		96~118まで一括
97	帰国道中日記	文久元酉	8	18			9月22日帰城まで。表紙に(後筆)「侍従様」とあり	袖珍本		
98	御道中勤要録 卷之弍						「御首途之心得」「御発駕前心得」他	袖珍本		
99	御道具御行列御人数改帳	文化9	2	吉日	加来姓			袖珍本		
100	諸事覚記	[天保8~嘉永元]					「大殿様青山御屋敷御口(引)移以後覚」	袖珍本		
101	慶賛公侍従様 諸御行列口 全	安政3辰	1		真藤登			袖珍本		
102	寅二月立唐津通 少将様長崎御道中川割帳						帰路共に	袖珍本		
103	御船寄						六十六丁立住吉丸他福岡藩船覚	袖珍本		
104	明治辛未自十月二日ヨリ 御布告控并縣ノ布達伺類 但社寺ニ関係之分 各神社宮司姓名録	明治4	10	2			裏表紙に「後布告控并県ノ伺書類」とあり	袖珍本		
105	若殿様御引越御用記	文政6癸未	5	15				袖珍本		~同7年2月22日
106	御道中 勤要記 卷一	万延元庚申	7		花房正邦		「御挾箱御入組覚并日笠抜掛ヶ」他。表紙に「郷仮三一」、裏表紙に「万延元年庚申七月東武詰方中写之集矣 花房正邦謹書」とあり	袖珍本		(東武詰方中写之集矣)
107	江都勤用日記	安政元	5	11	(真藤利明力)			袖珍本		~翌年正月29日
108	日記 文政九年丙戌 從正月朔日至四月朔日	文政9丙戌	從正月	朔日				袖珍本		至4月朔日
109	日記	安政2	2	朔日				袖珍本		~8月晦日
110	諸事覚						御扶持方渡高、諸支払覚	袖珍本		
111	日記 秋	[文政6]	7	朔日				袖珍本		~9月晦日
112	□江 日記 二 文化十二乙亥年從六月八月	[文化12]	6					袖珍本		至8月2

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
113	少将様御参府 諸事覚 万延元申年八	万延元申	8					袖珍本		
114	浪花行記 明治四午年正月廿五日発	[明治4]	正月	24	(真藤大属)			袖珍本		~3月26日迄
115	日誌 明治廿五年一月一日ヨリ	明治25	1	1				袖珍本		~4月17日
116	掌中覚						「御国ニ而御社参御仏参御供覚」「四月立九月立長崎御供覚」「御本陣心得覚」「御供式之覚」他	袖珍本		
117	徒従様御参府御道割							袖珍本		
118	卯九月ヨリ日記 安政二年	安政2	9	朔日			御帰城より御発駕までの日記、安政2年鳳林院17回忌、10月2日大地震	袖珍本		~辰2月21日
119	長弼御出勢ニ付覚書 慶応二年寅四月取調	慶応2	4					袖珍本		119~136は一括
120	徒従様御拜日御獵日諸社御参詣并御代参等御次第						表紙に「御拜日御獵日と安政三年辰八月御治定、諸社御参詣御代参等之次第は勤入御□ニ相成」とあり	袖珍本		
121	長州御追討之一ノ先御人数御引揚ニ付帰陣之上之左之通之御手数ニ相成	慶応2	8					袖珍本		
122	江戸詰方中 正月元日ヨリ二月迄 嘉永二年 日記 下書	嘉永2	正月	朔日			表紙に「済」とあり	袖珍本		~2月29日
123	七月朔日ヨリ九月九日迄 嘉永七年日記 地	嘉永7	7	朔日			表紙に「済」とあり、「侍従様御初入ニ付御次第書」を合載	袖珍本		~9月9日、青ゴム印86~
124	御門御定法	明和8卯	12				桜田・麻布・白銀・渋谷4ヶ所屋敷門の定他	袖珍本		
125	諸記				吉永重致		御精進日、御寺御参詣御次第、黒田家関係者祥月命日他	袖珍本		
126	御家書						聖照権現御神影筆者、御法令3ヶ条、御胄、御向立、御採配、御鞍拝領の次第他、表紙に「郷仮三三」とあり	袖珍本		
127	江戸日記 文化十二年乙亥	文化12	9	4			表紙に「従前年九月四日至当年五月一」とあり	袖珍本		~同12年6月7日
128	環瀛日記	慶応4	8	17			福岡出帆より福岡帰着まで、表紙に「慶応四年八月十八日暁福岡之津出帆」とあり	袖珍本		~10月6日
129	覚帳				利恒		表紙に「利恒(花押)」あり	袖珍本		
130	聖照権現二百年御神祭并御祝之御次第						表紙端に「追而御記録引合之筈」とあり	袖珍本		
131	勤用日記		10	8				袖珍本		~閏10月29日
132	文政年間御定 江戸御近火之節御行列付							袖珍本		
133	[江戸謹用覚]						「両御屋形江月並御機嫌御伺御使者従御用人相勤候事」「着服之事」「飛脚之事」他			
134	[覚]	安政6己未	冬	改			真藤市郎兵衛所務覚、貸銭覚、津出覚	袖珍本		
135	[諸覚書]						千代田城・平川天満宮・山王社等への参詣の際の規例	袖珍本		
136	[覚書]						福岡・鞍手郡若宮河内・表粕屋郡猪野・裏粕屋郡薦野他への銃士配置人数覚	袖珍本		
137	秘 日記 万延元六月十日ヨリ	万延元	6	10			「着到ヨリ江戸詰中 万延元六月十日ヨリ万延二年八月十八日御発駕御供 御道中ヲも 御着城迄」「済」とあり	袖珍本		~同2年9月24日、後欠

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
138	日誌	明治17	8				8月1日～12月7日	小横帳		137～146は一括
139	日記	壬申	3				2月晦日～3月7日	小横帳		
140	長崎御道中御行列付							袖珍帳		
141	六拾四箇(条脱)細註						「天ハ万物之形を顕し地ハ是を養」他 捕手術の心得	小横帳		
142	御本丸御宮万留	明治3年	5	改			表紙に「(郷一三〇)」とあり	長帳		
143	覚書						「殿様ヨリ若殿様江年中御仕向」「若殿様ヨリ殿様江之年中御勤」他	小横帳		後欠
144	[藩債取調子帳]	明治4	正月					小横帳		
145	[福岡藩年表]	享保5						長帳		～天明2年、前欠
146	廿四騎伝記				牛尾辰之丞久照編輯 (長野誠写)		他に安永7年7月より寛政12年までの(仮題)「知行減没帳」を合載 他に安永2年「寺社書上」「筑前続風土記附録」(国中社数・国中寺数他)「拾遺」「田島御檢地帳檢使名許」他			
147	[福岡藩法令集]						刑罰・長崎他	長帳		前・後欠
148	兵法全書記聞 五ノ下巻	寛政10	8		含章舎			小横帳		前欠、147～151 は一括
149	兵法全書記聞 六巻	寛政10	8		含章舎		表紙に「寛政十年歳次戊午八月十一日ヨリ 六之巻 前四 (朱書)十九冊之内九」とあり	小横帳		
150	兵法全書記聞 七巻	寛政10	8		含章舎		表紙に「寛政十年歳次戊午八月廿八日ヨリ 七之巻 甲為 (朱書)十九冊之内十」とあり	小横帳		
151	兵法全書記聞 八巻	寛政10	9		含章舎		表紙に「寛政十年歳次戊午九月八日ヨリ 八之巻 正 (朱書)十九冊之内十一」とあり	小横帳		
152	兵法全書記聞 九ノ巻上	寛政10	10		含章舎			小横帳		前欠
153	維新前後事蹟取調書				高原謙二郎		薩埴志士北条右門・同竹内五百都・岡部謙助他との交友録	書冊		152～223は一括、「明治十四年四月 ワタ作伝習生と復命摘要報告 福岡県勸業課」の裏紙を使用
154	鞍手郡龍徳村光明寺過去帳写						慶長18年11月19日没量誉妙寿尼の略歴を含む	罫紙	2枚	
155	櫛橋家略系図						政伊より権沈(則英嫡子)まで	書綴		
156	御遷座御次第書軸帳	[明治4] 辛未	12	26				書冊		～同27日
157	源姓小川氏略系図						小川左近大夫氏植(小寺政職に仕え有岡危難の時誓文をあぐ)より	書綴		
158	入定寺記録						博多入定寺由緒、「筑前非人敵討」の覚	罫紙綴		
159	讃井嘉八氏の概略						明治24年11月12日死去	罫紙綴		
160	文久二年戊七月以降国事関係抜抄・御参府一条						表紙に「安政五年五月ノ分少し入」とあり	書冊		「明治十三年福岡県勸業年報第九回」の裏紙使用

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
161	[松原神社碑文写]	明治13歳在 庚辰	夏5		滋賀県令従五位籠手田 安定撰、一等編修官従 五位巖谷修書		陸軍大将兼左大臣2品大勲位熾仁親王篆 額	書綴		
162	[平尾山荘遺趾碑文写]	明治26	8		正二位伯爵 東久世通 禧撰			罫紙綴		
163	慶応元乙丑閏五月廿四日 長弼ト和蘭ト 馬関応接書						喜多岡所持、応撰の際の応答書	書冊		
164	芹田惣助系譜						他に、城戸半之助由緒を合綴	書綴		
165	家中積之書	延宝5写之					旗本1備・小備1組・女共入用あらしこ共 等、人数積り	書冊		
166	東大寺正倉成卷文書写						大宝2年「筑前国嶋郡川辺里戸籍」写、他 に「東宮殿下及妃殿下、御式服」、明治22 年11月30日福岡日々新聞号外「(旅順口 における)混成旅団ノ勇戦」等を合綴	書綴		
167	[達書写]	元治元子	5			大監察	犬鳴谷御別館御取建(於鞍手郡若宮河 内)に付、移転の達、別館の規模「覚」他 を合綴	書綴		
168	旧秋月藩主黒田長敬子下県送迎録	34	8	16			「福日」「九州日報」と抜書	罫紙綴		
169	[平尾山荘遺趾碑文写]	明治25			従二位伯爵東久世通禧 撰		他に7月30日、真藤利明他54名より奥山 享苑の書状(長溥公分霊を光雲神社内堅 盤神社へ合祭の取斗いの願)写あり	罫紙綴		
170	禁錮類聚 封廻状						三宅土佐守家来渡辺登(主人家来へ渡 し、在所にて塾居)、松平内匠頭与力町医 長英(永宰)の封廻状写	書綴		
171	[爵位授与覚書]	明治33	5	10			授男爵、加賀金沢旧老横山隆平、筑前福 岡黒田一義他	書綴		
172	探隠秘録 竹森家記トモ云	享保10乙巳	3	吉辰	竹森貞右衛門貞矩・愚 父以順入道	能勢	竹森家記分抜萃、文化10年中秋日10時 保誠写	書綴		
173	[初式連歌写]	明治36	1	11			上野東照宮にて連歌初式執行、宗匠深川 世阿、執筆土岐美静	書綴		
174	名家手簡十集目録				香雪斎蔵板		儒家藤原惺窩他214人	書綴		
175	寛永二年以後乱心ニ而家名断絶被仰付 候輩						寛永2年5月11日断絶原吉大夫他、文化8 年7月分まで	長綴		
176	殉難志士祭追告						来る11月8日東公園に於ける殉難志士祭 に長野誠翁も併せ祭らんことの通知	罫紙		
177	[三事録 卷下]							書綴		前欠
178	[弔詞]				湯浅亨		逍遙宗先生への弔詞	罫紙		
179	[温古堂先生肖像賛]	大正2	2	12	湯浅亨撰并書		肖像(石田生所描)	罫紙	2	
180	黒田君歴世一覽 訂正						法号・尊考・尊妣・官位・夫人・小字・誕生・ 致仕・承襲・寿・逝日・葬地	長帳		
181	[和歌]				海妻甘蔵直繩		「一すしに」	罫紙		
182	鳳陽院様御遺髪龍光院江被取納候次第		4	23~26				横帳		
183	仙巢秘笈						駒山氏の分、友泉亭御茶屋取立他	書綴		
184	履歴書						山内氏広、黒田一義、故加藤潜他、諸雑 記記載	書綴		前欠
185	[潮音巖君七回忌弔詞]	天明6	5	13			文化2年霜月17日、安部龍平写(徳安君 所蔵分)	書綴		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
186	[諸届書]					黒田長成家関係者	「分娩命名御届」「附籍御届」「庶子養御届」	罫紙綴		
187	記						源光院の建築(承応2年薬院に建立、寛文9年荒戸山に再建)	罫紙		
188	[久松家系図]						久松佐渡守全俊より桜溪院(忠之室)まで、長政室大涼院、継高4女菊子婿先につながる	書綴		
189	[覚書]						真藤駒山家年表(正徳2年12月～享保6年4月)、吉田久兵衛自観履歴他	書綴		前欠
190	[従二位徳川義直略伝]							書綴		
191	[談話会記録]						26年11日(ママ)浜の亭集会の節松浦持出分(嘉永4年11月中頃、長湊・薩州対話の件)、「有柄川関東守衛の節、自分組銃手名元」他	書綴		
192	早稲田大学得業式						第20回得業式授与式の模様、得業生九州出身者氏名	罫紙		押し花あり
193	運溪秘書 四卷						十時保和蔵、同本の解説(益軒・春庵・高島瀧等の訓話と当時の人物の言行を評す)	罫紙		
194	殉難口(武力)烈	慶応4戊辰	春3		松岡政人篆額、重野安繹撰書			書綴		不読
195	[朝鮮役関係史料抜書]						「読撰清正記」、杣義昌氏蔵文書より	書綴		前・後欠
196	文政年間見聞漫記				草華山人			書綴		不読、後欠
197	[酒井忠勝言行録]	明和乙酉2			山口安固			罫紙綴		前欠
198	[菊池霊社祭典費及社殿修繕費醸金依頼書]				発起者 早良郡原村人民惣代山田文象・同郡田隈村神官池田元胤		罫紙綴	罫紙綴		
199	[談話会講話記録カ]	[明治]18	2				西南の役時(明治10年3月)、黒田清隆外鹿兒島表出張の件	書綴		
200	何陋軒記				宮本茂任		筑後藤君(福岡師範校長)の三潯の地へ転任するにあたっての送辞、他	書綴		
201	[筑前人物氏]						香月春峯・千々和直信・波多野庸成・釈宗朗	罫紙		断簡
202	草野氏覚書						龍造寺隆信、秋月種実・種長父子・筑紫広門・原田信種他の諸将聞書覚書	罫紙綴		
203	[佐々倉七兵衛書状写]	慶応4	4		佐々倉七兵衛		浄心院不慮の御卒去の悼状	書綴		
204	[薫子書状写]		正月	21	薫子	(刑法官)	横井平四郎殺害及び同心の者に罪一等減刑仰付の願	書綴		
205	[刀剣実用論]						新刀位列・刀剣実用・大業物の刀工、刀味のこと他	罫紙綴		
206	[吉田家記]						東蓮寺藩分封時の吉田家関係文書、「吉田家臣伝」(是安甚太夫村山猪右衛門・岡嶋五郎左衛門他)、「孝明天皇后御葬儀御行列附」他	書綴		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
207	[芳齋漫録抜書]						宝暦9年9月継高参府、同12年7月重政死去、安永4年6月継高死去の件他、他に谷山志摩之介家譜抜萃(綱之麿嫡の件)あり	書綴		
208	[系図]	明治26	9		真藤利明	粕屋覚之助	「加藤系図」「木村系図」「神屋伝」「吉川家記略伝」他を合綴	書綴		
209	1 覚						「兵庫湊にて蒼準丸一件」「三宅有春碑文」「龍苑老翁靈祭祝詞」等合綴	折紙	1枚	後欠
209	2 [谷山姓家系荒増]	寛文15寅	3	4	席田郡立花寺村庄屋秋根彦右衛門昌村		他に、嘉永4年11月11日「柳園老翁命靈祭祝詞」「鷹取周成碑文」他	書綴		
210	海軍日録	明治20	7	5~	海軍大尉小笠原長生		豊島海戦、黄海大海戦、その他「福島正則広島城引渡覚」等を合綴	書綴		(210~223整理後括ってある。152~223の中でさらに括ってあったのか不明)
211	篋里落葉 一名環翠漫録	明治41	3				「和歌講式」「大江流軍法伝来之次第抄」「香椎宮事祀」「山田略系」「秋月黒田家系図」他を合綴	書綴		
212	東京表江之言上状写						明治5申年安田仲之上京に付、御造営受持中・御筋目中ヨリ御家職梶原寛・加藤惟中宛の書状他	書冊		
213	編輯御用取調簿	明治24	6		真藤利明		明治24年7月31日(光雲神社内和暢亭にて集会)~同25年5月29日。表紙に、赤鉛筆で「郷土」の文字あり	書綴		
214	廿四年分東京江照会控						「史集会ノ件ニ付、松原江送付ル書翰控」(真藤利明より松原方直宛)	書綴		判読不明
215	[福岡啓藩志]						黒田伯耆政成、小川若狭氏定。赤鉛筆で「郷土」の文字あり	書綴		
216	[黒田孝高記草稿]						「如水遺事」を合載	書綴		
217	吉川経家遺言ノ上書		10	24	吉川式部少輔経家	経言(広家)	鳥取において御用に立つ内々の覚悟、他に経家書状3通の写あり	書綴		
218	[寛文元年六月廿六日寄合帳抜書]		7	26			伊藤小佐衛門・大賀惣右衛門両名、長崎表にて御調物残銀利足上納の件、他に「毛利秀包略伝」を合載	縦紙	1枚	
219	日記	37	2		(真藤利明カ)			書綴		~翌年11月11日
220	黒田睡鷗覚書抜書						関ヶ原陣における長政の動勢抜書、他に「梶原家文書」「御感書類集」他よりの抜書目次	書綴		
221	随読随抄						(仮題)「信国助左衛門吉貞伝」飯田武郷「日本書紀通釈」「林五介文書」他を合載	書綴		紙質劣化、要補修
222	長野誠抄録						明治4年8月、東京御移徙に付、御感書古文書類別手伝の際に啓藩偉績之考証に供する書類の抄出、他に、「於蔚山麦後巻次第」「元和9年家中奉公人知行出て控」「御宗族御席順」「旧藩政中養蚕ノ業」他を合載	書綴		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
223	御感書御宝器類并長溥公御道具取調簿						他に「御掛物類并御茶器」「御宝蔵金御譲り并長溥公御遺産簿」「長知公御盟証」他を合綴 赤鉛筆で「郷土」の文字あり	書綴		
224	黒田系図・藩翰譜弁正・続藩翰譜系図弁正 十二						表紙に「五番」のスタンプあり。重隆～長成	書冊		224～243まで一括
225	大文字屋五兵衛 旧記之抜書				比喜多五兵衛		五兵衛宗吟(宝永7年死去)まで	書冊		
226	ころふくろ						少将様京都にての詠歌、長藩永井監物配所にて殺されしときの辞世他	書冊		
227	御追号書 全						松平亀五郎(大涼院の父保科弾正忠正真より七代)他、公義御追号、(黒田家)御追号他	書冊		
228	集書						「宗祇あゝ休むへき木陰もなき長き日陽を」、「人丸の画像の事」他 表紙裏に「小川文庫」の印あり	書冊		
229	鄙稿						「観丹楓説」(凡四時之物其色有)	書冊		
230	従文久二年至明治元年 修史料 履歴書翰之部						贗札1件、小林甚六郎1件、有明1件、秋月海賀宮門書翰、方岡舎人同断他	書綴		
231	花照宴一首 以春為韻						「春月待行幸北山仙閣同賦池台」	書綴		
232	鳩巢先生諫書		11		常方		聖徳2年壬辰冬鳩巢先生与白石大夫諫書	書冊		
233	諸礼聞書覚						「御相伴心得之事」「汁まんちう食様之事」「書物渡し様の事」他	書綴		
234	寺社記抜書 黒田家長野氏所持						休夢様御位碑心宗菴への年々代参(寛政8年12月ヨリ)他、明治15年9月12日「菊池寂阿公之墓祭典式」他	書綴		
235	磐書流唐船合奉注記 防戦卷上・下							書綴		
236	薩劔藩持出候書付写		正月	9	薩劔兵中	福山御家老中	先般徳川氏無限の疑惑より生ずる各地での暴発に際し、貴藩とは旧来臣子の間柄に付、兜廩を共にする情義は勿論のこと、他この件に関する関係書類を合載。赤鉛筆で「維新」の文字あり	書綴		
237	[児玉備後助・結城下総助連署書状写]	[慶応4]	正月	19	児玉備後助・結城下総助	佐々木三四郎・大山壮太郎・吉井源馬	今般花山院殿御下向に付、早々御人数等を差向られ、従来の芥政を除き、下民安堵の処置取斗いの願、同一件関係の書状写を含む。赤鉛筆で「維新」の文字あり	書綴		
238	[梶原七太夫存寄書控]	天保3辰	3		梶原七太夫		読書専要の事等、今後の教育、しつけについての存念書上	書冊		
239	草案	天保7丙申	4	3	梶原七太夫		只今暫時の御不自由、御堪忍あらば、此先御安楽の御基いにて御補養の道大事	書冊		
240	[朝鮮両役紀事本末抜書]						朝鮮出兵記事抜書、他に黒田家歴代藩主花押写、長浜可運軒覚書内利休宗易居士肖像他	書綴		
241	御指令写	明治6	6	9	大蔵省事務総裁 参議 大隈重信		黒田長知への償還金2万8, 186丙余を更に福岡県負債追加帳に仕立て差出すべきのこと、他に黒田家家禄に関する史料を合綴 赤鉛筆で「維新」の文字あり	書綴		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
242	[旧藩事蹟書類取調関係史料綴]	明治24	3	18	松原方直	西川護・真藤利明	先般宮内大臣より御達の旧藩事蹟書類蒐集の真意について報知他	書綴		
243	[明治新聞雑誌抜書]	明治5	1				東京府貫属、世襲の禄を辞し、農市の籍に帰らん事を請ふ(1871年9月14日横浜刊行ヂャッパンメール新聞)他	書綴		
244	平尾山荘遺趾碑	明治25			従2位伯爵 東久世通禮撰		他に「直方碑」碑文を合載	罫紙綴		244～310まで一括
245	稲葉石見守切腹記						表紙に朱書で「八番印」とあり	書冊		
246	心術論 一						表紙に鉛筆で「維新」とあり	書冊		
247	南朝古系図覚						後醍醐天皇ヨリ懐良親王、他に「平」「北条」「楠木」「北畠」他の系図を合綴。表紙に朱書で「十一番」とあり	書冊		
248	大元師(ママ)陛下行幸御日割						11月10日大里着発、博多駅着発、他に明治36年6月15日の当宮周宮の泉山後月輪東山陵他の参拝記あり	書綴		
249	水戸浪士閣老脇坂家并細川家江自首致候節差出タル訴状				佐野竹之助外		表紙に赤鉛筆で「維新」とあり	書冊		
250	就御尋須恵皿山開基之事	天明5巳	8		新藤長平 尚英		須恵皿山開基と新藤氏由緒。欄外に「表カスヤ」の文字あり	罫紙綴		
251	[黒田長政陪臣覚]				長野誠	黒田家	「旧記に相見候而只今相続仕候御付之与力之覚」「与力ニ而は無之候得共長政公ニ奉仕陪臣ニ相成候と見へ候輩」	書綴		
252	三事録序	嘉永4辛亥	11				凡例・格君・択賢才・開言路・除蔽害・富国	書綴		
253	三事録 中						制札付楽論制度。表紙に朱書で「八番印」とあり	書冊		
254	御茶室建方ニ付願	明治16	5		光雲神社祠官沢辺利彦・同社会計主宰岡部	黒田家御家職御中	和暢亭付の御茶屋建立許可仰付の願、黒田一美の承諾書あり	罫紙綴		
255	殉難者靖国神社江合祀願	明治21	5	31	本貫姓籍姓名	福岡県知事安場保臣 久留米荘嶋裏町戸長姓名の奥書あり	久留米旧藩士真木和泉守保臣他の者を靖国神社へ合祀仰付の願、他に奥山亭の返書あり	罫紙綴		
256	さゝは集 秋						「ひとひたに」他歌集	罫紙綴		
257	刀劔鑑定参考書							書冊		
258	濃州岐阜落城軍記						他に天明元年8月、深川仙台河岸伊達侯下屋敷大溝堀より得たる河童の図他あり	書綴		
259	記録所御障子名所和歌						有栖川中務卿職仁親王「春日野や」他	小横帳		
260	[弔詞]	明治39	11	(ママ)			天香軒真藤君への弔詞	巻紙		
261	近世詩哥集						少将公(長知)の御詠、薩州八田喜左衛門・黒田静翁・大隈萍堂他	書冊		
262	[姫路白鷺城沿革]						赤松貞範姫山に藩鎮築営(貞和2年)より	罫紙綴		
263	安徳天皇潜幸遺蹟				井上頼因校閲・高山昇謹述			書綴、後欠		
264	策命	明治35	11	15			従5位下黒田孝高に従3位の授賜	罫紙		
265	速水頓齋略伝						承応元年黒田忠之所望により黒田家下屋敷へ召さる	切紙		
266	[辞令]	明治17	7	5	福岡県大書記官従6位 渡辺清	江崎千吾	山門郡出来町・細工町他9ヶ町の戸長に任命	切紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
267	[黒田美作家譜抜書]						美作墓地と殉死者、一成の妻及び女子他	罫紙綴		
268	万略覚 壺						「万葉集略解」	書綴		
269	明治二十年五月三十一日日用帳試算表						他に「金銀出納帳心得」「売物帳心得」「記簿法」他を合載	書綴		
270	口上覚	辰	正月		小笠原佐渡守家来高島 勘解由、差添渡辺多 門・杉江会輔		今度京撰変動に際し、壺岐守こと関東閣 老任職中につき歎願御取成しの願、正月 28日付松平、勘解由願書を合載	書綴		
271	宇多源氏始祖追遠碑							罫紙	2枚	
272	献納御鏡祝詞	嘉永5壬子	5		筑前国守従4位下行左 近衛権少将源朝臣齊溥		宗像郡仲津御嶋へ同島で掘出の金銅に て製造の鏡を奉納	罫紙 縦紙	2枚	
273	真言惣録	文政3	4書上				京都仁和寺御所未東長密寺	書綴		
274	こく楽火事				日々菴撰		「狂歌題詠撰抜式拾五章配段之巻」、 「極楽の火事にこれだけ焼残り 地こくに廻す 火のくるまあり」他	書冊		
275	極楽の火事				撰歌 白酒舎山迹		「有がたや」	書冊		
276	関原軍記書抜覚						秀吉公薨去の後秀頼公の後見人、四老、 五奉行、三老他	書綴		
277	[豊臣秀吉略系譜]						秀吉父母、姉(三好武蔵守略系)他	書綴		
277	2 [高橋紹運顕彰文]							書綴		
278	太宰府連歌屋再興願	[嘉永5]	[8]	[19]	連歌屋昌順		他に伊藤小左衛門船漂着の件を合載	罫紙綴		
279	思出草	天保8	神無月	初	堀尾貞行		同行者石松元啓、知常	書綴		
280	[某流馬術極意書]						馬辺ニ寄様之事、鞍ノ上ノ五ツ物ノ事他	小書冊		
281	祝詞	明治9	6	12	祠官沢辺利彦		光雲神社大御社内東御門等修築竣工の 祝詞	縦紙		
282	[飯盛神社明細]							罫紙綴		
283	神祠編入願	明治25	10	28	那珂郡住吉村大字春吉 670番地信徒総代河村 治兵衛他4名	福岡県知事山田為暄	小鳥馬場18番地鎮座堅磐神社の明細帳 編入許可の願、同社の「明細帳」小鳥馬 場18番地の土地を光雲神社への寄進 「願」を合載	罫紙綴		
284	[弔詞]	明治33	4		堀尾彦六郎		春波早川勇先生の霊前への弔詞	縦紙		
285	青柳所蔵目録	明治27	7				信長公御代九州土名附、御無足組御城 代組諸土名寄帳他	書綴		
286	[黒田家系図]						継高まで	書綴		前欠 綴紐無し
287	[御用帳寺社之部抜書]						享保20年3月15日(雷山仲之坊改藩隠 居、後住実相)～宝暦13年4月9日(殺生 禁断)までの雷山関係史料抜書	書綴		
288	[黒田家家臣伝]						井上之房、原種良、堀平右衛門、村田出 羽、栗山備後、菅和泉	罫紙綴		
289	[黒田熊之助伝]	[明治29]	[5]				29年7月16日は熊之助君300年忌のため、 関係史料の蒐集	書綴		
290	[英]一蝶略歴						他に遠賀郡吉木村岡城主麻生氏由来を 合載	書綴		
291	備前侯ヨリ口演之覚	卯	9		松平備前守内 日置帯 刀・牧野権六郎		徳川御三家のうち、今までのように御内輪 にて疑念なきよう、御一和の願 他に板倉 伊賀よりの別紙あり	書綴		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
292	[蒿蹊崎人伝抜書]						梶左馬助・中原覚阿・長山七平女他の奇談「箕里落葉」合綴	書綴		
293	[祝詞]				大教正松田敏足		福岡崇福寺の浜辺に奥域所設置の祝詞	竪紙		
294	[倉八隣書状]	明治29	3	21	倉八隣	真藤利明	出福中御祭礼も滞なく行われ欣然の至、御噂中の今様を進上	罫紙	1枚	
295	[東京図書館蔵本写(山崎宗雄写)]	明治22		秋日	82叟長野誠		天享2年10月下吏日、駿河国鳥渡草薙神社細細他の写	罫紙綴		
296	閏四月十六日矢野安太夫出張先引之御用状	[慶応4]	4	16	矢野安太夫	御家老中	賊徒の器械を受取りの筈の処、突然備州藩へ夜掛け仕り、騒動の様様	書綴		
297	[黒田長溥光雲神社御社参次第]	明治8乙亥	3	15			東京吉村春樹作の祝詞を合載	罫紙綴		
298	[徳川家系譜略]						歴代将軍及子息母堂・側室他に幕法(芝居興行)、新吉原由来、浅草弾左衛門由来を含む	小横帳		前後欠
299	手翰集 第六						極月6日、寺田弥次右衛門包貞より筑紫衛・淵上郁太郎宛(此節、主人父子蟄居中に付、役人衆より委細御聞きの願)他、書状類写	書冊		
300	[八幡愚童訓抜書]						他に「日蓮註画讃」「歴代皇紀」「皇年代略記」「帝王編年記」他よりの蒙古襲来関係記事抜書	書綴		
301	[武家七徳後編抜書]						元禄年中黒田家長臣黒田美作の悪政と諫臣鬼城新左衛門の件	書綴		
302	[書状綴]	明治11	11	8	岡吉胤他	信藤利明・魚住明善	太宰府御滞輦の儀は一先、御取消の願、他に皇太神宮の御分霊巡幸の件に関する関係史料を綴る	書綴		後欠
303	[長門・山城連署書状写]		閏8	28	長門・山城	播磨・御家老中・杉山文右衛門	京都御内命の一条、御参府一条等も程能く取はかられ都合よろしく進行のこと、他関連史料写	書綴		
304	[母里太兵衛他二十名連署起請文写]	天正6	11	吉日	母里太兵衛外20名		官兵衛不慮に上方辺に御逗留に付、御本丸にての勤仕起請、他に「夢道所持之書籍目録」他を合綴	書綴		
305	[貝原家所蔵文書目録]						辰年雑稿、文纂、三社詔宣抄他、「送黒田重時書」「飯尾系図」他を合綴	書綴		後欠
306	長短随筆老ノ巻祓卒						博多焼失年月、博多再興、筑前国中水品試順位、井上淡路守庸名石碑銘候	書綴		後欠 綴紐無し
307	[吉田長利伝]						他に「野村隼人祐直伝」「佐賀中岡堀所分一件」「官軍戦死者墓碑由来略記」「遠賀川堀川記」	書綴		木山紹完伝、明13年、福岡城、犬鳴鉄山、後欠
308	[日記]	[明治25]	[4]	15			光雲神社代参、崇福寺代参他	書綴		～9月21日
309	[書状および触状写]	[文久3]	2	29	御名・松平甲斐		英吉利渡来都合につき、御備向防禦筋の儀は両家に十分委任仰付の願他	罫紙綴		
310	[達書写]	元治元子	8	24		大目付	今度長州表御征伐に付、御定の御備・御供召連らるによりその心得あるべきのこと他、長州征伐関係史料	書綴		
311	兵要録 卷一 兵談上				澹齋長沼氏広敬著		湯浅氏	書冊		311～331まで一
312	兵要録 卷二 兵談下				澹齋長沼氏広敬著			書冊		
313	兵要録 卷之三 将略上				澹齋長沼氏広敬著			書冊		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
314	[兵要録 卷之四] 将略下				澹齋長沼氏広敬著		元治2丑年初秋中? 湯浅重信写	書冊		
315	兵要録 卷之六 練兵二 偏伍				澹齋長沼氏広敬著			書冊		
316	[兵要録 卷之七 練兵三上] 県令				澹齋長沼氏広敬著			書冊		
317	[兵要録 卷之八 練兵三下] 賞格				澹齋長沼氏広敬著		慶応元年11月26日湯浅重信写	書冊		
318	兵要録 九 練心胆 練兵四上				澹齋長沼氏広敬著		湯浅氏	書冊		
319	[兵要録 卷之十] 練兵四下 練心胆				澹齋長沼氏広敬著		湯浅重方	書冊		
320	[兵要録 卷之十一] 練兵五 練銃頭				澹齋長沼氏広敬著			書冊		
321	[兵要録 卷之十二 練兵六] 教旗鼓				澹齋長沼氏広敬著			書冊		
322	[兵要録 卷之十三 練兵七] 檢従馬				澹齋長沼氏広敬著		湯浅氏	書冊		
323	兵要録 卷之十四 出師 上				澹齋長沼氏広敬著		元治2丑年暮春下旬、湯浅重信写	書冊		
324	[兵要録 卷之十五] 出師中				澹齋長沼氏広敬著			書冊		
325	[兵要録 卷之十六] 出師 下				澹齋長沼氏広敬著			書冊		
326	[兵要録 卷之十九] 戦格				澹齋長沼宗敬著			書冊		
327	兵要録 卷之二十 戦格 攻守三				澹齋長沼宗敬著			書綴		表紙欠
328	[兵要録 卷之二十一 戦略攻守四] 入伐				澹齋長沼崇敬著			書綴		
329	兵要続録 卷之四 守城				門人忍齋宮川尚古著			書綴		
330	兵要続録 卷之五 城制				門人忍齋宮川尚古著			書綴		
331	1 [兵法書]						「将戒」 将たる人の戒め	書綴		
331	2 [兵法書]						元治2 2号、三月中旬、湯浅重信写	書綴		前欠、途中欠
331	3 [兵法書]						馬の扱い	書綴		
332	長政公御遺書 全				栗山備後嫡大暗・井上周防嫡内記・菅和泉嫡主水・村屋蔵		正徳4丙午歳4月6日与、文化7・6月下旬津田正輝写	書冊		断簡
333	[弘化四年未三月四日 信州善光寺地震風説書]							書綴		
334	越中守殿御渡被成候御書附				長谷川平蔵	無宿共加役方人足に仰付につき、右御用勤むべきのこと		書冊		
335	[達書写]		4	13	御官名	御国中	今度碓泊中の洋夷より殺害一件生ぜしにより、兵食は不足なれど州中一致に身命を抛ち家名を汚さるるに精忠類入のこと他	書綴		
336	安旅睡帰録	天保9戌	正月		一声	御家中	所務出高に応し一粒一銭の出し人もなくして、莫太の銀高備わるる算法の術	堅紙綴		
337	大目付役 備忘						「諸士之内爵被仰付并御免之節申渡所柄出會役人覚」他	小長帳		
338	嘉永五子歳 日記 春夏		正月	元日			表紙に「正月元日卯六月廿九日迄」「済」の文字あり	小長帳		~6月29日
339	郡方申伝書						「御書上古新用差引」「郡方記録書抜(拝領壺作・口米・種初利米・三合夫米)」他	袖珍帳		
340	[上座郡村々明細帳]				鎌田九郎兵衛		田畠高共	折本		
341	[長政公法令三ヶ条]	享保12	9			黒田美作・郡正大夫・大音六左衛門・浦上三郎兵衛・吉田六郎大夫	元和3年の長政公御法令を遵守すべきのこと	継紙		341~342は一括

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
342	極書	文久2壬戌	4		筑後示談役床島一兵衛・同古川久左衛門・同末永良七・同田主丸正太郎、筑前示談役長田九平・同□(古カ)毛忠七・同志波幾右衛門		筑前領下座郡数村及筑後国との湿抜仕向以来の双方取極のこと	継紙		
343	□成公鹿兒島御出雜記	明治10					袋あり、「明治七年 □成公鹿兒島御出日記」3月8日払暁山川港着～3月15日出帆	長帳		袋あり
344	[大目付 日記]		(前欠)7	3				小長帳		～12月21日(後欠)、前後欠 綴じ紐欠
345	1 松本家由緒						助太夫光勝の軍功及び子孫主殿直勝享保5年唐船乗取焼破の功にて時服・白銀・拝領まで	豎紙		
345	2 黒田一声歌詠						「一すちに」他一首	切紙		
345	3 寝覚水鶏						河州同心井手内匠詠「老いとく」及び大坂同心永嶋多仲詠、河五月雨「漸に」他の短歌	切紙		
345	4 [書状]		9	7			昨日喜多村安兵衛方へ罷り越し写取の一札進呈	切紙		
345	5 [口上書]						東学問所指南加勢役手狭に付、加勢役を断りし者の名元書上るにより、上より仰付の願	折紙		他に一紙同文(後欠)あり
346	[奥詰所図面]							1舗		要補修
347	[郡奉行所図面]	文化14					郡奉行詰所、郡役所、郡代役所、免奉行役所、大庄屋控所他あり	1舗		要補修
348	[黒田藩江戸藩屋敷図]						隣に水野日向守邸あり	1舗		要補修
349	島氏詩稿				中島肅著		「逆南皋先生遊京師」他	書綴		349～431一綴 綴じ紐欠
350	[飯盛山神宮寺真教院由来]				(青柳種信筆)		続風土記拾遺草稿カ	書綴		
351	[筥崎八幡宮由緒]	明治12	10		箱崎八幡宮祠官末永茂世、同村戸長 長三九郎		他に箱崎村同「荒神社」、同「池嶋神社」、同「隼男神社」他を含む	書綴		
352	[太宰府神社明細書]						建物・年中祭事・宝路略	書綴		
353	筑紫遺愛集抄						伊藤道保、青山敏文分	豎紙		
354	記	明治14	10	11	西高辻信巖・小野隆助	真藤利明	本年10月10日太宰府神社内如水公御住居跡と云い伝うる所より出し骨壺の模様書出し他関係史料	書綴		
355	[石碑銘・墓碑銘集]						「龍光院殿如水円清大居士碑銘」「筑前大守黒田長政公碑銘」「郡山故記室菽生先生墓誌銘」他	書綴		前欠
356	[達書写]	明治6	3	5	三潞県参事 水原久雄	各区正副戸長中	断髮令	罫紙綴		虫喰大、要補修
357	記						賢次郎実家ノ続(粕屋郡立花村父泰造次男上村甲四郎他)	切紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
358	由井正雪企徒党候一件ニ付御奉書之写	[慶安4]	8	25	阿部豊後守忠秋・松平和泉守乗寿・松平伊豆守信綱	松平筑前守	去頃当地において徒党を企わたる浪人共は、早速露頭し、或いは捕え、或は自殺にて、去10日は死罪に行なわること	切紙	3枚	破損
359	藤堂家略系図						藤原高虎～某瓊雄まで	豎紙	2枚	
360	故黒田長溥公十年祭及光雲神社臨時祭寄付金収支決算報告書	明治29	3	30	祭典委員			豎紙		
361	[伺書]		5	10	真藤		吉松殿年86の相違の有無他	罫紙		
362	[毛利家略系図]						毛利元就ヨリ光鎮(毛利就生)まで	豎紙		
363	由緒概略	明治42	3	28	福岡市瓦町新道 関37		甚右衛門(桧物職)ヨリ三七まで	書綴		
364	[立花家略系図]						立花河内守(三河守)鎮房より11代増熊まで、他に重興家略系あり	罫紙	2枚	
365	栗山家略系図						善右衛門浄圓ヨリ大吉利周まで	豎紙		
366	桐山家系書抜						丹波守丹斎ヨリ13世丹敬まで	折紙		
367	1 小壁重書状		8	23	小壁重	真藤利明	過日御咄しの拙家方系図荒増書抜別紙の送付	継紙		
367	2 [小壁家系図]						喜左衛門重慶ヨリ11代方直まで	折紙		
368	[福岡日日新聞書抜]						明治37年10月11日「地租増徴説」「軍費支出額」	豎紙		
369	[木村家略系図]						木村定成ヨリ(重貞子)村寿まで、木村重成の家系	罫紙	1枚	
370	村瀬氏系図						村瀬市之丞ヨリ再稚まで	豎紙		
371	[覚]						当7月、特旨を以て贈位ありし人々の名書、故月形洗蔵・故海津幸一・故鷹取養巴・故建部武彦	豎紙		
372	[はな請取証文写]	慶長2	9	19	竹中源介	黒田甲斐守	開寧にて300の受取、同年9月29日玄風における223の受取状を添う	豎紙		
373	[高崎元彦戦死報道写]						高崎正風嗣子海軍少佐元彦戦死の件	豎紙		
374	嬉遊笑覧一ノ巻六						71番職人歌合、楊枝屋の看板、草枕・藤枕・枕枕・菅枕他	豎紙		
375	[招魂祭弔歌]	明治28	11	30	福岡県士族 真藤利明		軍人の招魂祭に「みを捨て」	罫紙	1枚	
376	[黒田長溥略歴]						明治20年3月7日従2位叙位まで、長成奥方及びその兄弟他を合載	継紙		
377	[野田家略系図]						野田新兵衛ヨリ新十郎まで	豎紙		
378	[黒田忠之書状写]		5	14	忠之	大島又右衛門・郡正大夫・喜多村安右衛門	村田兵助に男子あらば死罪、女子ならばその俣に召置くべきのこと、他に7月15日付郡正大夫宛忠之書状写あり	豎紙		
379	[光雲神社明細書]						社号・祭神・鎮座・祭日・紋章・神裔・神宝古器古書画・書籍類	豎紙		
380	[書状]						中村久助の実父母并に兄弟、浅香氏ヨリ養子に参りし人の名元他の問合せ	切紙		
381	[覚]						綱政公側室光照院(吉田与助女)の死亡日覚	罫紙		
382	[真藤利明・西川護連署書状]	22	11	1	真藤利明・西川護	奥山亨	旧福岡藩殉難者合祭の件にて、取捨者の申請を致したく、志士伝の略伝写を至急送付の願	罫紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
383	照会状	明治31	6	28	村上吉三郎	梶原実・中江正義	爵位局長より月形洗蔵等4名の遺族の氏名并に現住所至急入用の旨来るにより取調べの上御回報の願	罫紙		
384	[福岡藩武芸者名]						剣道(高井多中)・馬術・兵学(貞行)・鎗術(井上元一)・柔術(鎌田八左衛門)	折紙		
385	御外孫略御系図						孝高ヨリ継高子まで、京極・池田・酒井等	罫紙	2枚	
386	[国民新聞抜書]	明治37	4	26			今回の戦闘にて敵将しかも世界唯一の名将死没の報接に対する、桑島主計長・志津田航海長連署状	罫紙		
387	相沢貞次江御達書						御相続御養子の儀に付、一身を抛ち、その身の忠勤、殊勝に付、御褒美として切米1石加増、4人扶持切米14石仰付のこと	罫紙		
388	[内藤丹桂舎書状写]			6	20	丹桂舎	五卿衆の薩摩への転座探策の願	罫紙		
389	[大賀信好(宗句)伝]						信好(博多商人唐物商売)伝	罫紙		
390	[立花家略系]						立花家元祖～10代増時～増業	折紙		
391	島津略系						24世重豪～26世斉興～斉彬・久光・斉敏まで	罫紙		
392	[策命文写]	明治37	5	17			北条時宗御前(鎌倉円光寺)にて、従1位への位階追陞	罫紙		
393	[直方領主略年譜]						元和9年10月高政分知へ享保5年継高直方領還付まで	折紙		
394	浜地家血統						曾祖父某～父小藤次(尾石家に養子に来る)～八郎まで、別に「小藤家血統」あり	切紙		
395	[日本書紀書抜]						鈞明天皇21年、大將軍紀男麻呂宿称(ママ)等を遣わし新羅任那を攻むるの状を問わんと欲し、遂に任那に到るの条	切紙		
396	降伏(ママ)状	元治元子	12		武田伊賀守正生	加賀中納言様御内永原甚七郎	武門之情を、此段尊藩において別て御酌取り、よろしく御弁解成し下さるよう願上のこと	罫紙		
397	月照院連阿碑節略						管絃歌の師、享和癸亥10月9日没	罫紙		
398	[岡村家略系]						岡村次郎右衛門之正～1代与左衛門正子～9代浄まで	罫紙		
399	[大坂朝日新聞書抜]	明治33	9	5			藩祖開城紀念祭ノ会合(江州彦根藩祖井伊直政卿並に彦根開城300年記念祭	切紙		
400	[靈源院殿葬祭参加者名元覚]						正徳元年6月10又8日、高宮村興宗寺において執行、伊丹九郎左衛門他	切紙		
401	死亡届	明治33	6	20	届出人家屋管理者 高島益良	福岡市戸籍吏 松下直美	黒田長成家族たいの死亡届、他に診断書を合載	切紙		
402	届	明治32	2	12	光雲神社々司 真藤利明	福岡市長 奥山亨	光雲神社用地の件は、沢辺利彦死去後、今般森方丙作他3名に惣代申付の届出	罫紙		
403	慶長十五年二月十一日 御下知状					竹森清右衛門	当夏百性普請免除の代わりに高沼に桑し本苑植えさすべきのこと他。端裏に「史集会ニ入用分」とあり	折紙		
404	[殉難面々招魂ノ上祭典執行次第]	明治28	12	8			於光雲神社内和暢亭	折紙		破損大
405	[本朝女鑑・此賣鑑抜書]						菊池入道討死後、妻後追い自殺の項抜書	罫紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
406	[明細書写]						従4位下侍従松平筑前守齐隆、本国・生国・居城・養父・実父・家督年月日、叙任年月日	豎紙		
407	[雑誌「日本」抜書]						天山(足利義満の稚号)他に同事項について『画工印章巻1』よりの抜書あり	豎紙		
408	[連歌懐紙]					芥甫	「動きなき御世哉宮ゐも幾千秋」他	折紙		
409	[覚]						文久3年3月15日、慶賛公太宰府一時遠乗の際の御供並びに乗馬の毛付、他に慶長18年11月19日「鞍手郡龍徳村光明寺光明寺過去帳写」あり	継紙		
410	[覚]						文久3年3月15日、慶賛公太宰府遠乗の際の御供並びに乗馬の毛付	切紙		後欠
411	[覚]						貝原市太夫他の奥羽戦争における出兵動態の覚	折紙		
412	[覚]						御前様御妊娠、文久3年4月御越空御発着月日他、伺いに対する返答書	豎紙		破損大
413	[皇太子殿下(後の大正天皇)略歴]						本年2月11日陸軍少佐・海軍少佐兼職まで	豎紙		
414	[覚]						元禄7年4月將軍綱吉加茂両廟祭典復興、同13年11月幕府細井知慎をして先王諸陵を修補させ完了	罫紙		
415	[有泉亭及び眼界鐘集名付の由来]						宝暦4年継高城南田島村に別館経営	豎紙		
416	[遠賀郡治水事跡]						享保20年遠賀郡受持、仲間村道元と申す所の湿地、水抜、遠賀川治水工事	折紙		
417	[木戸孝允書状写]				木戸孝允	太政大臣三条実美	朝鮮海において朝鮮艦の横暴に対し、確乎とした処置をなすべきの旨進言	豎紙	2枚	
418	[歴代住持名元]						万治元年11月18日、開山豪秀～14世豪宣(明治3年10月3日)	切紙		
419	[追悼歌]				一畝		春波翁の追悼祭に「早川の」	豎紙		
420	[詠歌集]						右小弁資枝 社頭桜花「さくら花」他	豎紙	2枚	
421	[詠歌集]						松浦格弥「わが君の」他、桑野弘人・天野恒彦・福田保義・真藤利明・帯谷松道	折紙	2枚	
422	蕪路						夜時雨;松村「影きゆる」他、添削あり	罫紙綴		
423	[書状]		1	2	尾沢枕石	真藤雅伯	旧胤以来の拙吟の送付	罫紙	2枚	
424	[書状]		8	31	松原方直	長野誠先生	啓藩志の都合問合せ、御申出の儀あらば、下県中の同崎まで申出の願他	罫紙	2枚	
425	[祝詞]						横川貞子10日忌の祝詞	罫紙	1枚	
426	[覚]						黒田長政叙位、受任、上京御手伝普清の党、御大祭二付御次第書を合載	継紙		
427	[月照入筑記事]						安政5年9月京都清水成就院の僧月照、薩州に逃れるに、筑前に留まりし時の記録	罫紙		
428	[覚書]						大内太郎左衛門尉妻の出自、隆業の母は麻生遠江守家延とあるも近江守の誤リカ等3ヶ条の問答	継紙		
429	[再居庵覚書]	明治29	卯月		再居庵		母里大人と書画の話	豎紙		
430	[祝詞]				平篤胤		秋津彦瑞桜根大人命祭典の祝詞	罫紙綴		
431	[啓藩志稿列伝松井家伝草稿]	明治22	7		82叟誠		松井十太夫重天ヨリその子元右衛門まで	折紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
432	[書状]			6	20 金	尊祖父・尊大人	本日午後2時よりの古来未曾有の大地震の被害状況通知	継紙		432～475まで一括
433	[書状]			1	30 金	尊祖父・尊父	結婚期日延引の件については不満足に付、双方都合よろしき時にすることと致したきのこと	継紙		
434	[書状]			8	6 □	御母上	東京にては本年もコレラ流行、去2月下旬より少々脚気病のところ只今は以前の通に快復	継紙		
435	[書状]				18 ぬる田	富永哲二郎	来る5月21日の検定試験受験についての受験有無の問合せ	切紙		
436	[書状]			1	9 柴田喜輔	藤田先醒	その後、小川円より何たる確答もありやの問合せ	切紙		
437	[書状]			4	11 吉村庄左衛門	藤田藤太	漁業執業の件にて相談致したく、当地まで至急御足労の願	継紙		
438	[書状]			4	11 □	尊祖父	4月3日付の書状(姉の凶報)到来の返事	継紙		
439	[書状]			旧9	23 二川二九郎	藤田藤太	旧明24日夕より神祭執行につき、御来車の案内	継紙		
440	[書状]	[明治27]		8	3 夜 金	尊祖父・尊父	日清事件は終に一昨一日を以て破裂し、東洋の平和はここに維持困難	継紙		
441	[書状]				25 道順・敬□	藤田	道順こと、昨夜より腹痛にて本腹覚束なく、自然御無礼も斗りがたく一応御断りのこ	継紙		
442	[書状]			10	2夕 秀	御祖父・御祖母・御父上・御母上・末松御母上	御当地と事異なり飲食物高値、殊に御肴などの如きには驚入、日々の御かずに入ること	継紙		
443	[書状]	明治28		1	1 金	尊祖父・尊父	年頭の挨拶	継紙		
444	[書状]			3	6 □	御母	先達てより父様へ毎度御伺のこと今日に至るまで何の返答もなく如何の都合や催促の願	継紙		
445	[書状]			旧2	20 水石	藤田御両	当年光妻25年の年会に付、法事執行致すにより御出浮の案内	切紙		
446	[書状]			12	2夕 古川俊	藤田義寛	黴菌学研究のため北里博士の伝流(ママ)病研究所に入所予定なれば確定の上は更に通知のこと他	継紙		
447	[書状]			7	11 久保□(偉力)助	富永哲二	去3月の師範学校入学試験に於ては不合格、6月の徴兵検査では工兵科甲種に撰抜さること	継紙		
448	[書状]			8	16 □	御慈母	近況報告、渡辺勇の帰国伺い	継紙		
449	[書状]			10	20夕 金	尊祖父・尊父	東京での嫁さがしの状況報告	継紙		
450	[書状]			9	24 □		冷氣より寒気におもむくにより羽織一枚送付の願	切紙		
451	[書状]			1	30 納□(富力)	藤田兄	今は町村に身を任せるものに付、明日の政談演説会には不出席の所存	継紙		
452	[書状]						明日の都合問合せ	切紙		
453	[書状]						別紙月計簿写の締切日及び会計年度についての説明	切紙		
454	榎本武揚夫人寄夫詩						榎本武揚夫人寄夫詩「戒君勿耽花月夕」他に大久保利通詩詠を含む	継紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
455	[書状]						昨30年度分の納附済分、未納分の明細書上	切紙	2枚	
456	[書状]						31年度納附済及び未済分の目録の送付(但し目録なし)	切紙		
457	[書状]		3	30	重田賛次郎	藤田賢兄	意外の延引にて貴殿始め漁業者に迷惑をかけたことへの詫状	継紙	2枚	前欠、破断
458	[書状]		8	7	樋田魯一	藤田義寛	亡母の魂祭に御燈明料御恵投の礼、大日本農会の用にて関西出張中に東京大地震の報に接するに、留守中への見舞状到来の礼	継紙		
459	[書状]		11	29夜	金	尊祖父・尊父	縁談整う由承知、帰国の日取を定めるため結婚日御通知の願	継紙		
460	[書状]						藤田発起講懸金取立のため1人遣わすので、御渡しの願	切紙		後欠
461	[書状]		8	25	岩本金吉	藤田藤太	先般伴彦三郎御地帯在中の御厄介の礼、その節約定の一件につき、盆後早速参上の予定	切紙		
462	[書状]		3	11	牛原	藤田	昨日御面会后、如何の御都合ありしやの問合せ	切紙		
463	[書状]				金	尊祖父・尊父	兼て御下命の結納着物について、樋田夫人へ相談の上決定の着物及び代価の知らせ	継紙		
464	[書状]	24	12	10	□□(柘崎カ)轍輔	有田治三郎・藤田藤太	明後日帰村の際、返却の約定で、旅費欠乏のため金3円拝借の願	継紙		
465	[書状]		7	16	秀	御父上	御祖父様東京出立後、途中京・大坂に立寄り、名所・旧跡を一通り見物し、去る13に着京のこと	継紙		
466	[存寄書]		9		真藤三郎		家老へ仰付らるような人柄は存懸なし、島々警固の足軽共へは合葉御渡し然るべきのこと他	折紙		
467	[書状]		9	6	□	尊大人	過月未来の病気のため借金も嵩み、目下進退致しかたもなく今回限りの約定で送金	継紙		
468	[書状]		2	7夜	金	尊祖父・尊父	妻たらしむなら現職を止めること及び一度の帰国にて事済むよう御配慮の願	継紙		
469	[書状]		11	2夜8時	金	尊祖父・尊大人	今以て送金ならず、日時も期し難しとあれば、誠に失望の至、至急送金の願	継紙		
470	[大坂陣大風屏風仕立覚書]						竹森清左衛門大坂陣での動勢と屏風仕立の次第書上	折紙		
471	[三奈木黒田家家譜抜書]						黒田忠之参勤首途に一成宅へ立寄りし、先例の発端書抜	切紙		
472	1 短冊				保民		秀通氏の学業に対し、君より白銀他を給うをことばぎて「すそわたる)		1枚	①～③の包紙あり
472	2 短冊						「むら時雨」		1枚	
472	3 短冊						「善と見る」		1枚	
473	[書状]				金	尊祖父・尊父	波多江君周施による娘子の容ぼう・気質等を書き送るので御返事の願	継紙		
474	[書状]		2	13	□	尊大人	金欠のため学問の困難な状況説明	継紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
475	[書状]		9	4			鄙嬢縁辺の儀につき、至急取調べ願う 廉々書載	継紙		継紙剥離、要補修
476	[書状]	万延元	9				以後政事向自然然るべからず存付候節を 遠慮なくその筋へ申出べきこと他、諸役 の心得方説論	継紙		
477	覚				竹森貞右衛門		旗差者、新大工町より在郷(那珂郡下白 水村内・同郡野間村)在住の次第書上	切紙		
478	[書状]		正月	10	久野斎・井手勘兵衛	藤田哲蔵・藤田九六郎	年始の挨拶	切紙		478~491まで一
479	[書状雛形]		12	2	藤田九六郎	千葉新太夫	書状形式の雛形、文面は寒中見舞い	切紙		
480	[書状]		12	24	石津勝蔵・斎藤五三郎	藤田哲蔵	歳暮の祝儀として金子200疋の進呈	切紙		
481	目録					藤田様御父子	御樽代壺封(但金200疋)	切紙		包紙あり
482	[書状]		11	15	藤田九六郎義寛	野辺直記・牧野内記・松 沢権左衛門・米溪新助・ 雨森十郎兵衛	若殿様結構の御役儀の仰せを蒙ること への祝詞	切紙	3	他に同一文章の もの写2通あり
483	[書状]		正月	10	井手勘兵衛	藤田哲蔵・藤田九六郎	年始の挨拶	切紙		
484	[書状]		12	10	石津勝蔵・斎藤五三郎	藤田哲蔵	先頃、寒中御見舞のため御出福の砌に、 旅宿御見舞として進呈の筈の金子合せて 400疋を進呈	継紙		
485	[書状]		4	27	新聞局ヨリ児嶋源二	藤田堅(ママ)兄	先日、拜謁及び諸土産物拝領の礼、当地 にては去る20日に養蚕東広会社開業式 開会	切紙		
486	[書状]		正月	10	尾石八郎・吉村丈平・守 田孫三	藤田哲蔵・藤田九六郎	年始の祝詞	切紙		
487	[書状]		8	15	新庄久之	藤田義寛	老母流行病のため、7月29日に死去の旨 通知、金谷原村該容にて死亡	継紙		
488	[書状]		9	2	久口口浦庄屋沖西九十 郎・新町同吉村庄七・岐 志同岡崎重三郎	加布里浦庄屋藤田藤太	先日御懸合の黒虫繩執行の儀は漁人中 納得につき、後日に支筋申きたらば、早速 に懸合すべきこと	継紙		
489	[書状]		7	31	稲八	義寛	三坂村と撰村との境目御改め、取替証文 の年月(天保12外6月)の報知	継紙		
490	[書状]		1	28	稲八	義寛大兄	徳永方発記講加入につき、彼人旧借との 関係、岩田方養子の件他通知	継紙		
491	[書状]	明治12	1	24	児嶋源二	藤田義寛	当地養蚕会社員は200名、1株金10円の 処、凡300余株になり近日旧長蔵跡へ新 築につき、大分縣より勸業係出張の筈	継紙		
492	席田郡金隈村庄屋組頭乍恐御願申上ル 口上之覚	文政6	正月		金隈村与頭善吉、同村 庄屋新吉	那珂席田夜須御笠 御 免方御役所	当村正法持田ヶ浦両所堤建樋仕替に、大 工数不足に付、増加の願、平尾村大庄屋 又平より永田十兵衛・鎌田権右衛門への 奥書あり、端裏に「未正月廿六日十兵衛 殿聞届済」とあり	継紙		
493	祝詞				松田敏足		御前を去りて明日、東都に赴くの祝詞	堅紙		
494	御笠郡原田筑紫両村庄屋組頭御願申上 ル事	文化12	10		原田筑紫両村庄屋良 助、原田村組頭新助、 同伊平外2名	松岡太郎左衛門様御役 所	筑紫村抱くら、(倉良カ)川に新規に土橋 掛方仰付の願、原田村大庄屋外右衛門ヨ リ松岡宛の奥書あり	継紙		
495	乍恐申上候條々	元和9	3	16	栗山大膳之亮		御鼓の事他、忠政への諫言の条々、裏に 同年3月17日の忠政より栗山への奥書あり	継紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
496	[書状]				御名内 団平一郎		7月28日午時頃奥州富岡より、浪江までの軍勢動勢の報告	継紙		
497	[茶煎法]						茶の煎り方、かまいりの法、ほいろしたて	切紙		
498	[狂歌集]						「いこしへのもふこの時と阿部こべてちっとも吹ぬ伊勢のかみ風」他	継紙		
499	[茶臼山猿踊話]						猿踊にかりた世評諷刺	継紙		
500	手形		卯8	23	庄屋□□八郎右衛門	頭百姓 三左衛門	琉口寸志銭錢2貫250目の受取	切紙		
501	[風説書]						蝦夷一件、卯年8月19日の江戸深川八幡御祭礼での溺死の模様及び狂歌	継紙		
502	我扎抱之壺作島ほのけ式畝余之所賃物へ書入借用仕銀子之事	享保8卯	2	17	西町島主源四郎、弥丸町請人源右衛門、宮前町請人甚右衛門	興徳寺	享保8年ヨリ4ヶ年集入、西町年寄弥平の奥書あり	継紙		502～505は一括端裏に寄贈印有り
503	御上納ニ差支私抱塩浜永代ニ売渡申証文之事	万延元申	12		売主西町吉助、受人弥三郎、同左平	興徳寺御納所	西浜下浜1反2畝18歩を正金1両3歩340文にて永代売渡し、同町組頭弥七・平三の奥書あり	継紙		端裏に寄贈印有り
504	元禄四年分田方御年貢米迷惑仕ル付而我等田地浜ひらき賃物取置借用申銀子之事	元禄4巳	12	16	かり主甚七、請人清二郎	寺前権三郎	抱田地9畝21畝を賃物に年利1割にて来暮に元利共に返納の約定で銀230文の借用、某の奥書あり	堅紙		
505	[抱家屋敷并田島永代売渡証文]	元禄12	3		庄屋市郎右衛門・番頭惣三郎外11名	興徳寺	弥丸町先番頭助太郎上納差問へるにより、抱田島并家屋敷を、代銀180文にて永代売渡し	継紙		端裏に寄贈印有り
506	[灘縣郡仲村明明細帳]		3	11			神社、岡、溝、古城、山他	継紙		
507	[短冊]						「こゝの波ハ」		1枚	
508	家禄奉還願	明治8	何月		何大区何十区鳥飼村何番屋敷居住 願人士族何某、第一大区何区何村何番証人士族何某	福岡令	雛形、他に「家禄奉還見込書」ひな型を合載	継紙		丸ラベルあり
509	[註解法]						字句・訓読への来筆入についての註記	堅紙		
510	覚		申6		田代義平	吉海建右衛門	米代差引算用、包紙に「手形 吉海建右衛門殿 田代義平」とあり	切紙		包紙あり 510～531は一括
511	書入証文	安政5午	12		若者中俊平・藤三郎・勝右衛門・彦右衛門	年行司 三左衛門	宮ノ下堀村方相談の上、売払い、10ヶ年の間銭50目の預り	堅紙		
512	覚	明暦3巳	11		借用主仁助、請人旧右衛門	御帳本吉海三左衛門	来午ノ4月限りに返納の約定で三淵殿御扶持方の内、米1俵の預り	堅紙		
513	書入証文	天保15辰	12		高橋村書入主二助、同村五人組庄蔵他4名	同村庄屋芹川淳左衛門、庄村吉蔵	三淵殿抱畑5畝を引当に銭450目の借用	堅紙		
514	質地書入証文之事	慶応3卯	3	12	横手町当人かく、組合証人幾蔵、親類林吉、同久介	□町 村田良三郎	当用向につき抱用地1反2畝を引当に、来る10月迄に受戻しの約定で金7両の借用	堅紙		
515	書入証文	元治2	2		高橋村書入主八兵衛、同村五人組宇右衛門他2名	同村庄屋栄右衛門・同村半兵衛	年貢差支えのため抱田地7畝3歩を引当に、銭136匁の借用	堅紙		
516	覚	慶応3卯	12	30	下島茂三郎、請人隈部彦助	高橋村三左衛門	来る辰3月払の約定で月利1歩半で銭500目の借用	切紙		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
517	証文	慶応3	12		下高橋村借用主清四郎、同村受人文七・右同甚助	同村庄屋富田彦四郎、高橋村三左衛門	当年貢差支えのため来辰11月限りに出米切手を以て元利共に返弁の約定で銭1貫目の借用	竪紙		
518	身柄引当証文	明治2巳	11		高橋村借用主久三郎他5名	庄屋内田繁太郎、同村半兵衛	年貢差支えのため俵来午年給銭を引当に米3俵の借用	墨書		
519	証文	明治3午	5		高橋村甚三郎、同村受人十兵衛他3名	同村宗代半兵衛	会所出米2俵を引当に、当11月代銭納の節に返弁の約定で銭1貫目の借用	竪紙		
520	引当		卯3	30	住用主 安左衛門	三左衛門	出蔵及び増銭共に合せて870目の引当	切紙		
521	書入証文	明治2巳	12		高橋村書入主貞助、同村五人組諸年他3名	同村庄屋内田繁太郎、同村宗代半兵衛	諸上納銭差支えのため、抱畑地及に居屋敷を引当に1貫300目の借用	竪紙		
522	手形	明治元辰	12		新町松屋酒場九郎右衛門	吉海三左衛門	来巳7月限りに元利共返弁の約定で米10俵の借用	竪紙		
523	覚		午	8	富田成章	吉海三左衛門	当暮返弁の約定で銭317匁5分の借用	竪紙		
524	上高讓証文覚	明治2巳	正月		石渕村上駐尉七、同村五人組藤三郎他3名	同村庄屋左右衛門・高橋村半兵衛	野田殿抱田畑2疋合せて2畝9歩の讓証文	竪紙		
525	書入証文	安政2卯	8		高橋村書入主瀬助、同村五人組次平外4名	同村庄屋助左衛門、同村曾助	年貢差支えのため、土蔵1つを引当に銭400目の借用	継紙		
526	地所書入証文	明治14巳	12	30	山鹿郡津袋村古庄平七	同郡高橋村吉海真七	来る明治17年12月30日迄3ヶ年間書入にて、抱田地8畝8歩を引当に金50円の借用	継紙		
527	証文	文政9	12		高橋村朽原茂八殿高主吉兵衛、同村請人尉七・同才助	同村庄屋九助・同村才七	抱田地1反1畝を10ヶ年限りに、代銭450目の借用	竪紙		
528	覚	明治5申	6		津袋村借用主藤市利平次、同村受人同熊三郎外2名	吉海甚平	仰聞され次第に返弁の約定で銭2貫目の借用	竪紙		
529	上地証文	明和8	12		下高橋村上地主甚右衛門、同村五人組弥平次外3名	同村庄屋弥平・同村喜助	年貢差支えのため抱畑地6歩の上地証文、天保2卯8月、庄屋正兵衛の見届印あり	竪紙		
530	上高証文	慶応2寅	正月		下高橋村上高主彦七、五人組半七外3名	同村源右衛門	年貢差支えのため抱田地3畝の上高証文	竪紙		
531	書入証文	万延2酉	2		高橋村書入主又右衛門、同村五人組和助他3名	庄屋林太郎助、同村半兵衛	年貢差支えのため、抱畑2畝15歩を引当に銭120目の借用	竪紙		
532	[書状]		10	16	秀	御祖父・御祖母・御父上・御母上・末松母上	着京の状況報告	切紙		前欠
533	[書状]		11	11	秀	御祖父・御祖母・御父上・御母上・末松母上	北白川大将葬儀の様子報告	切紙		前欠
534	[書状]		5	20	金	尊祖父・尊大人	病気快方に向かう、大阪城等見学、貯蓄の重要さ等報告			
535	[断簡]								未済	

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
A1	古横岳知行高	文政12己丑	3	2	明?宗普写		天正15年10月26日、横岳崇福寺寺領寄進帳写	書冊		入力不能
A2	元和秘録	元和8戌	9		長政	右衛門佐	黒田長政遺言状写、御財用定則	書冊		
A3	肥州有馬御陣諸士言上記	天保3壬辰	5	7	木村藤原直恵		有馬陣の際の諸士働きぶり詮議につき言上の書	書冊		青インクナンバーリングアリ
A4	上下暦年誌草案 上巻				谷山知春捨		寛永8年11月～正徳4年正月までの立花氏年譜	書冊		
A5	睡帰録大意 口上之覚	[天保9]			初夏日		睡帰録体意「安旅睡帰録」の補説、風土合体の策に随いて御家中統の仕組として年々の備金のうち1万両宛の上納他	継紙		
A6	功崇公外孫系図 附酒井系図	明治11写			利就(長野誠編纂本写)		継高外孫諸家(相良・万江)系図、明治33年長野蔵本により訂正)	書冊		
A7	[御客様接待法]						御客様御当日の次第、肥前守源三郎様、大和守様	継紙		裏打
A8	[すそなわの記]		11		井手勘七	八重崎・清崎	長政の武功・遺時記	書冊		
A9	伺廉々覚						「野戦砲卒小銃隊編制之覚」「在住全備之跡急変之節御城下手配覚」	書冊		
A10	御当家御重宝故実						岡本正宗御小脇差(慶長17年忠之家康より駿府において拝領)他	書冊		
A11	御家臣系譜草稿 六						郡2・肥塚・小堀・衣非・明石・浅山・青木・沢辺・斎藤・沢木・岸田の12家分	書冊		
A12	旧記書目便覧						御家事之部(吉事・凶事・変災・法令定書・国境・雑事)、秋月之部、黒田家文書の分類	書冊		
A13	光雲神社御蔵書目						御家臣伝系譜草稿2～3、5～8他、石松・小川・井原村管蔵書目録、長野芳斎著者目他	書綴		
A14	唐津江戸大坂 三ヶ所定用米金御仕送規定帳						松浦氏関係カ、朱印こすり切りあり	書冊		
A15	上座部寒水・古賀両村御境絵図							一舗		彩色
A16	福岡城西手坤ヨリ望図							一舗		
A17	1 大田尾在来御台場図						明暦元年築立	豎紙		1～13まで綴
A17	2 魚見嶽三ノ増台場図						文化9年築立	豎紙		
A17	3 女神新規御台場図						文化6年築立	豎紙		
A17	4 女神在来御台場図						明暦元年築立	豎紙		
A17	5 大田尾在来御台場図						明暦元年築立	豎紙		
A17	6 スレ新規御台場図						文化6年築立	豎紙		
A17	7 神崎在来御台場図						明暦元年築立	豎紙		
A17	8 神崎式増台場図						文化9年築立	豎紙		
A17	9 神崎新規御台場図						文化6年築立	豎紙		
A17	10 神崎壺ノ増台場図						文化9年築立	豎紙		
A17	11 神崎三ノ増台場図						文化9年築立	豎紙		
A17	12 魚見嶽壺増台場図						文化9年築立	豎紙		
A17	13 魚見嶽式ノ増台場図						文化9年築立	豎紙		
B1	密啓	文政3	5		梶原七太夫		御上様の医師よりの補養筋一件につき、学問上からの考察を申し述べた物『程子』・『大学』・『経書』等りの抜粋を基とする	書冊	1	ナンバーリングによるページ打ちあり

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考	
B2	[口上覚]						公儀よりお触れの海岸防御の一件に付、自論を述べる	綴	1	ナンバリングによるページ打ちあり、No.23659よりの通し番号	
B3	[上申書草稿]		寅	11	梶原七太夫		「執政へ差出す」と表紙にあり、国政に関する進言の草稿	綴	1	ナンバリングによるページ打ちあり、No.23659よりの通し番号	
B4	[上申書草稿]			11	井上左市	梶原七太夫	墓所・御廟における祭礼について	綴	1	ナンバリングによるページ打ちあり、No.23659よりの通し番号	
B5	斉清公 奥ヨ御渡候御書付留 但草木之事	文政7~弘化2頃					筑前産梅など植物に関する綴・鶏に関する綴・「風土記」と題する松魚・蛤粉などに関する綴を合綴	綴	1	三つの綴はそれぞれ別の手による	
B6	諸士由来写見						明和元年11月に家臣提出させた先祖書きを集めた物の写し、いろは順に記載	書冊	1	表紙より数枚、上部破損、綴じ紐は下部のみ残り、上部は切れて紛失	
B7	[諸書付]						福岡城の規模・外観、「享保二年巡見使江被差出候書付之内筑前惣高村数之覚」「江戸御屋敷火災記略」など福岡藩の家臣・出来事にかんする諸記録の抜粋写し	綴	1	福岡県用罫紙や半紙、罫紙などを使用	
B8	[書状]			5	4	御家令	御家令様	知事が朝廷の御召しにより今日福岡を発船した知らせ、そのほかお知らせした藩などを記載	罫紙綴	1	
B9	[諸書留]						諸記録の抜粋、光之公像賛の写し・「御用記抜書」・如水公画像の賛ほかの写し・長政公御判物の写しほか	綴	1	綴紐の上部は外れ	
B10	[寺院明細帳]						福岡藩内の一向宗東派、時宗、普化宗など寺院名称書上げ	綴	1		
B11	天台宗 福岡藩						福岡の天台宗の寺院名称書上げ、表紙に「福岡藩」と有り	綴	1		
B12	[諸家譜]						井上・小河・野村・竹森・四宮・原・尾上・戸田・伊丹・櫛橋・大野・横山・木屋・中間・藪・母里・貝原・岸本・吉田・鳥居各家の系	綴	1		
B13	[寺院明細帳]						福岡藩内の浄土宗各派の寺院の名称書上げ	綴	1		
B14	[来状写]				小倉 黒部喜十郎		第1ページに「花山院一件」の朱書きあり、2月24日付同藩より来状之写し・正月12日島原藩指出候書面写・正月29日薩州藩指出候書付ほか	綴	1		
B15	[手塚家記録]						慶長2年6月11日付如水判物写しをはじめ、長政公判物・系図など	書冊	1		
B16	手鑑之法	明治36		7			裏表紙に「源本ハ管直所持之分也 同家江小笠原家より伝授秘蔵有之ヲ乞て写」とあり、手鑑とは何か、また手鑑となる名筆	書冊	1		

史料番号	表題	年	月	日	作成者(差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
B17	京御構定						明和6年9月14日に出された3通の御定書と安永3年5月6日・安永10年9月18日の御定の写し、京都の構え口の出入りに関す	書冊	1	末尾より数ページ上部に虫損大
B18	斎清公御成育筋ニ付表御構ニテ新右衛門より達書						表御構年寄八重崎・岩嶋・若年寄格御伝役 成瀬に対するご成育の心得書	長帳	1	
B19	口上覚						本務を退職し、各藩遍歴のお許しを頂きたくお願いの控え、安部家の来歴を添え	綴	1	
B20	奉願口上覚				福岡御家中有志中		勤皇攘夷の志を堅固にするよう願出	綴	1	
B21	御遷座次第書軸帳						御遷座祭の前日・当日の次第など、「御遷座手続書」を同綴、奴留由秀臣・黒田一雄などの名がみえる	綴	1	以前の調書に「警固神社」とあり
B22	天保十三年寅八月廿五日於御広間御直達	天保13	8	25			財政逼迫の折から儉約のお達し、三左衛門様の代読、9月1日・9月19日に出された御達写も記載	綴	1	
B23	長知公御書翰類	明治10					明治10年2月に勅使の船に同乗し、旧左府久光に面談に行った記録、挿入の罫紙半枚に、「明治10年2月17日に岩公より加藤を通しての演説の覚書」と内容を記す	罫紙綴	1	
B24	長崎御台場御飾草案						殿様等が巡見の際の飾り方覚	綴	1	
B25	四使勤則集 乾坤						使者の作法について、進物の渡し方・玄関の通り方・ご馳走の頂き方など	綴	1	
B26	御宝蔵金銀御記録諸帳面ヲ以相調子候分天保十二年丑七月改	天保12	丑7				1番組より4番組までの金銀書上げ、朱書きで天保13年の書き込みもあり	綴	1	
B27	内野太郎左衛門略歴	明治30	2		嘉穂郡内野村在住 内野彦二郎		内野太郎左衛門の略歴のほか、上古の衣服のこと、「都名所図会5巻」より長明方丈のこの抜書きなども記載	綴	1	
B28	諏訪氏系図	寛永11	8	20	山脇五郎三郎	四宮新三郎殿	端裏に「福岡藩士四宮氏系図」とあり、裏面に朱書きで「此冊正方軒年若キ頃五郎三郎口録ヲ授ケタルモノナルベシ」云々と	一紙	1	
B29	長谷川貞平略履歴	明治28	10				表紙題字肩に「史談会ニテ取調ノ節東京黒田邸取調 委員松原方直西島種美迄差出候控」とあり	書冊	1	
B30	内野太郎左衛門略歴	明治30	2		嘉穂郡内野村居住 内野彦二郎(印)		内野太郎左衛門の略歴、NO.23685はこれの写しカ	綴	1	
B31	家筋申図控						家臣系図、筑紫氏・小川氏・大塚氏・大野氏・尾田氏・尾上氏・加藤氏・河村氏・加藤氏・鎌田氏・梶原氏・貝原氏・河端氏を記載、末尾の河端氏の項目最後に「右は河端文庵蔵文化元子三月廿六日横江久之允借用分写置也」とあり	書冊	1	表紙より数枚、上部大きく破損、綴じ紐は下部のみ残り、上部は切れてはずれ、全体に上部は虫損
B32	[記]						久野氏宛ての判物写し、その他、朱にて訂正を入れる	綴	1	表紙より数枚、上部大きく破損
B33	[城郭沿革調査]	明治16				福岡県令岸良俊介殿	福岡城・小倉城・柳川城・久留米城の調査報告と城郭調査に関する布達の控え・調査内容の要綱などを綴る	罫紙綴	1	
B34	浪華染分手綱	明治12	12	22	中警視安藤則命	大木司法卿殿	大坂の藤田組らによる偽札事件に代表される、官吏の犯罪糾明に関しての上申書	罫紙綴	1	題字は内容と無関係カ

1153 福岡藩関係史料

史料番号	表題	年	月	日	作成者 (差出人)	宛名	註記	形態	数量	備考
B35	福岡城図						福岡城郭の図、左下に「香西某製図・ ・」と記入、・・部分は破れ	一紙着色	1	
B36	[絵図]						鞍手郡の図、道筋と村名を記入	一紙	1	No.23694～ No.23698は同じ 書き方
B37	[絵図]						那珂郡の図、道筋と村名を記入、北側は 糟屋郡の文字が途中で切れる、国境から 次の村までの方位や距離を記す	一紙	1	
B38	[絵図]						大嶋の図、東に地島が途中で切れる	一紙	1	
B39	[絵図]						宗像郡東部の図、津屋崎村・梅津村より 東の部分	一紙	1	
B40	[絵図]						奥津島の図	一紙	1	
B41	[絵図]						宗像郡の図、海上の奥津島まで載せる	一紙着色	1	
B42	[絵図]						対馬の図	一紙着色	1	